

# 多摩区3大学コンサート



阿部 孝夫市長 日高 義博学長

10月3日、多摩区3大学(専修・明治・日本女子)の学生による合同コンサートが川崎市多摩市民館ホールで開かれた(多摩区・3大学連携協議会主催)。  
演奏に先立ち行われたセレモニーで、同日、川崎市役所で「専修大学と川崎市との連携・協力に関する基本協定」を締結した阿部孝夫市長と日高義博専修大学長がそれぞれあいさつに立ち、今後の展望を述べた(一面に関連記事)。  
本学からは、今年創部45周年を迎えた吹奏楽研究会が出演。ディズニー・ファンタジー・ジョン、ヒリー・ザ・キッドなどを披露した写真。

# ロンドン五輪に向けた「戦い」は始まっている 勝利へ重要な情報戦略

北京五輪日本選手団員として参加 文学部准教授 久木留毅

今夏の北京オリンピックで、情報戦略スタッフとして参加した久木留毅文学部准教授に、各国で展開している情報・スポーツ医・科学面のサポートを中心に報告していただいた。

8月8日から24日の17日間、中国の北京市を中心に第29回オリンピック競技大会が開催された。204カ国・地域のトップアスリート1万193人が、28競技302種目で最高の戦いを繰り広げた。日本代表選手団は576人で、国外開催大会の過去最高規模であった。オリンピックの知られざる面に焦点をあてて報告したい。

**情報戦略スタッフ**  
現在、一般社会はもとより、スポーツの世界においても情報が勝敗を左右する大きな要因の一つとなっている。このように、  
情報戦略スタッフは、現在、一般社会はもとより、スポーツの世界においても情報が勝敗を左右する大きな要因の一つとなっている。

今回、私は前回の第28回オリンピック競技大会(2004/アテネ)、

寄稿



2002、2006年のアジア競技大会に続き情報戦略スタッフとして日本選手団本部に所属した。  
**金19個大躍進の英国**  
今大会は、開催国である中国が金メダル51個で前大会1位のアメリカ(金メダル36個)を破り、堂々の1位となった。3位は前大会同様ロシアであった。4位のイギリスは、金メダル19個を獲得し、前大会の10位(9個)から大躍進を遂げ、2012年ロンドンオリンピックに向けて強化が順調であることを示した。日本は金メダル9個で

## 強豪各国で対策進む



5500人が一挙に食事できるオリンピック村の大レストラン  
戦略を分析し、さらに対策を提案していくのも我々の役割である。  
情報面でのサポートも整っている。  
さらに、アメリカ・オリンピック委員会(USOC)は、これら自国内にあるスポーツ医・科学・情報機能とトレーニングセンター機能を、シドニー大会から北京大会まで現地に簡易的に設置し、選手がオリンピック期間中に占有的なトレーニング施設とサポート医・科学・情報サポートを受ける。これらの中で戦い、勝利のオリ

し、JOC上層部に報告していた。  
今大会の中国の成績は、地元の利を生かしたことはいうまでもないが、2000年シドニーオリンピック以後、金メダル獲得数で3位、2位、1位と上げてきていることから、用意周到な中長期戦略に基づくものであることが理解できている。さらに、中国のメダル獲得種目は、水泳競技の飛び込み系の種目、体操競技、ウエートリフティング、射撃というメダルの多い競技・種目で半数以上の金メダルを獲得している。  
このように各強豪国の



男子レスリングのグレコ・60kg級2回戦で笹本陸選手(奥はナザリヤン)が力強いパフォーマンスを披露している。

各国でサポート整備  
オリンピックにおいて、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮するために、スポーツ医・科学・情報サポートは、最高レベルのサポートが必要である。2001年、東京都北区に国立スポーツ科学センター(JNIS)が開所し、国際競技力向上のために科学、医学、情報面からのサポートを行っている。  
しかし、このような施設は、日本だけにあるわけではなく、アメリカにはコロラドスプリングスをはじめとして3つのナショナルトレーニングセンターがあり、医・科学サポート研究所(AIS)を設立している。さらに、アメリカと同様に北京大会では、リカバリセンターを現地に設置し、アスリートのパフォーマンス向上に努めた。  
フランスでは、パリ郊外に国立体育・スポーツ研究センター(INSEP)を設置してトレーニングとスポーツ医・科学情報の拠点としている。アジアでは、韓国、シンガポール、中近東のカタールなどに同様の施設があり、スポーツ医・科学・情報のサポートも進んでいる。  
日本の大手家電メーカーのパナソニックは、IOCのワールドパートナー企業である。もちろん、IIOCやFIFAという組織だけでなく、各国のオリンピック委員会

やサッカー協会も同様の手法でビジネスを展開している。  
アスリートに用具を提供しているメーカーにとっても、オリンピックは企業戦略を展開する上で重要な場である。水着メーカーであるスピード社のレーザレーサーは、今大会で最も脚光を浴びたスポーツ用具であろう。この水着を着て競泳で8個の金メダルに輝いたアメリカのマイケル・フェルプス選手は、報奨金として約1億円を受けたと報道された。スピード社の売り上げが想像できよう。  
**重点強化種目明確に**  
北京オリンピックを振り返ると、世界の競技力が高いレベルで拮抗している。  
ロンドンオリンピックで日本がメダル獲得数において上位に入るためには、重点強化種目を明確にして財源措置を計画的に行うこと、新たなメダル獲得種目を早期に決定し、スポーツ医・科学・情報サポートを充実させることが重要である。  
そのためには、北京オリンピックで得た情報を的確に分析し戦略を立案する必要がある。  
すでにロンドンオリンピックに向けた戦いは始まっている。